

報告 2 法制制度

はじめに

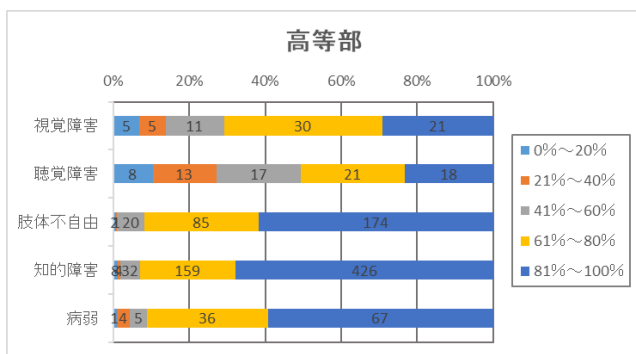
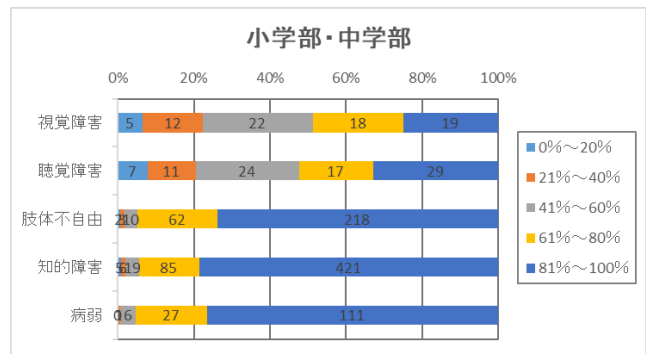
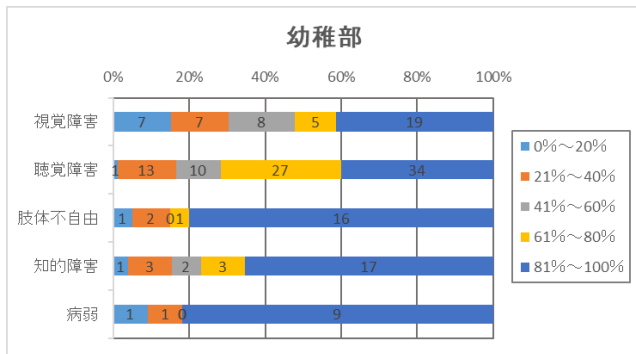
【38】 特別支援学校の免許保有率

	幼稚部					小学部・中学部					高等部				
	0%~20%	21%~40%	41%~60%	61%~80%	81%~100%	0%~20%	21%~40%	41%~60%	61%~80%	81%~100%	0%~20%	21%~40%	41%~60%	61%~80%	81%~100%
合計	8	19	18	33	65	17	31	72	158	577	20	25	75	242	533
%	(5.6)	(13.3)	(12.6)	(23.1)	(45.5)	(2)	(3.6)	(8.4)	(18.5)	(67.5)	(2.2)	(2.8)	(8.4)	(27)	(59.6)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	7	7	8	5	19	5	12	22	18	19	5	5	11	30	21
%	(15.2)	(15.2)	(17.4)	(10.9)	(41.3)	(6.6)	(15.8)	(28.9)	(23.7)	(25)	(6.9)	(6.9)	(15.3)	(41.7)	(29.2)
聴覚障害	1	13	10	27	34	7	11	24	17	29	8	13	17	21	18
%	(1.2)	(15.3)	(11.8)	(31.8)	(40)	(8)	(12.5)	(27.3)	(19.3)	(33)	(10.4)	(16.9)	(22.1)	(27.3)	(23.4)
肢体不自由	1	2	0	1	16	2	3	10	62	218	2	1	20	85	174
%	(5)	(10)	(0)	(5)	(80)	(0.7)	(1)	(3.4)	(21)	(73.9)	(0.7)	(0.4)	(7.1)	(30.1)	(61.7)
知的障害	1	3	2	3	17	5	6	19	85	421	8	4	32	159	426
%	(3.8)	(11.5)	(7.7)	(11.5)	(65.4)	(0.9)	(1.1)	(3.5)	(15.9)	(78.5)	(1.3)	(0.6)	(5.1)	(25.3)	(67.7)
病弱	1	1	0	0	9	0	1	6	27	111	1	4	5	36	67
%	(9.1)	(9.1)	(0)	(0)	(81.8)	(0)	(0.7)	(4.1)	(18.6)	(76.6)	(0.9)	(3.5)	(4.4)	(31.9)	(59.3)
合計	11	26	20	36	95	19	33	81	209	798	24	27	85	331	706
%	(0.4)	(1.0)	(0.8)	(1.4)	(3.8)	(0.8)	(1.3)	(3.2)	(8.4)	(31.9)	(1.0)	(1.1)	(3.4)	(13.2)	(28.2)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



幼稚部は他と比較すると保有率は低い傾向にあることが見て取れる。

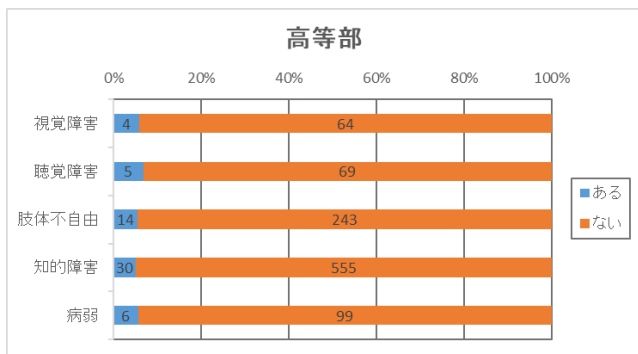
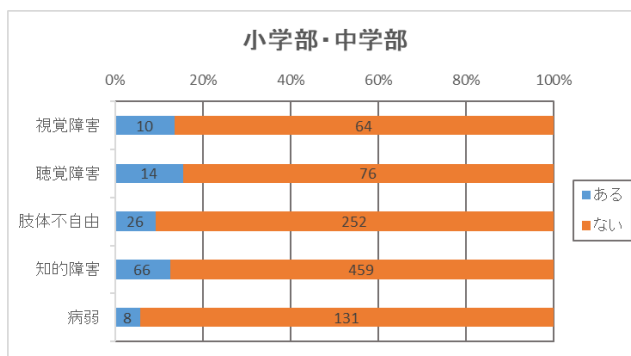
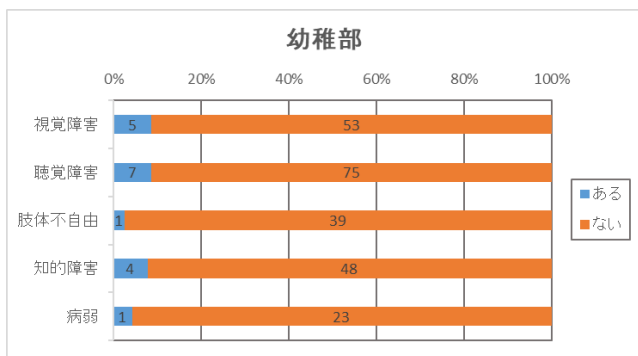
【39】 就学相談等において学校教育法施行令の一部改正が学校経営に影響がありましたか。

	幼稚部		小学部・中学部		高等部	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
合計	14	176	99	738	44	790
%	(7.4)	(92.6)	(11.8)	(88.2)	(5.3)	(94.7)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	5	53	10	64	4	64
%	(8.6)	(91.4)	(13.5)	(86.5)	(5.9)	(94.1)
聴覚障害	7	75	14	76	5	69
%	(8.5)	(91.5)	(15.6)	(84.4)	(6.8)	(93.2)
肢体不自由	1	39	26	252	14	243
%	(2.5)	(97.5)	(9.4)	(90.6)	(5.4)	(94.6)
知的障害	4	48	66	459	30	555
%	(7.7)	(92.3)	(12.6)	(87.4)	(5.1)	(94.9)
病弱	1	23	8	131	6	99
%	(4.2)	(95.8)	(5.8)	(94.2)	(5.7)	(94.3)
合計	18	238	124	982	59	1030
%	(0.7)	(9.7)	(5.1)	(40.1)	(2.4)	(42.0)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



どの学年、種別でもほとんどに影響がみられない、ということがわかる。

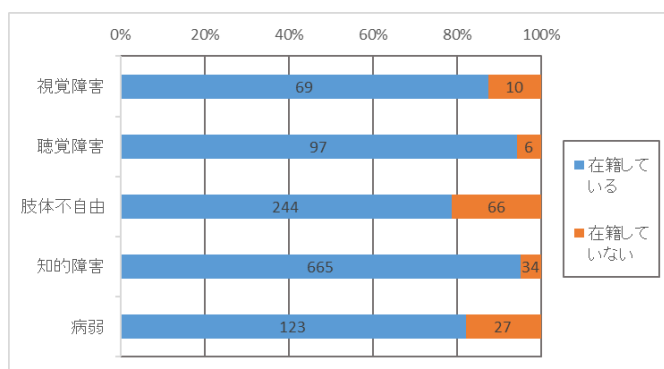
【40】 発達障害と思われる幼児児童生徒の在籍状況

	在籍している	在籍していない
合計	927	116
%	(88.9)	(11.1)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

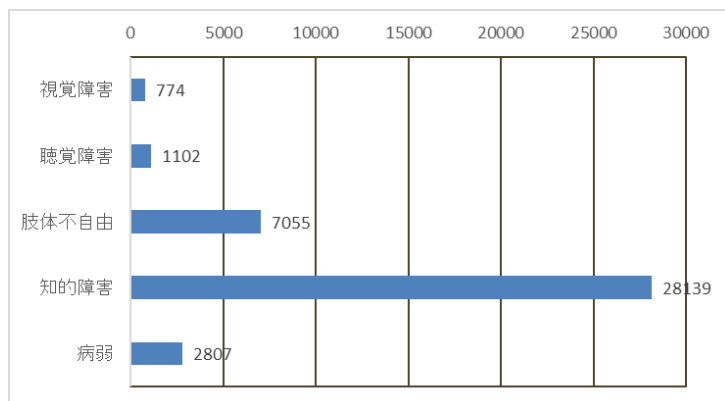
視覚障害	69	10
%	(87.3)	(12.7)
聴覚障害	97	6
%	(94.2)	(5.8)
肢体不自由	244	66
%	(78.7)	(21.3)
知的障害	665	34
%	(95.1)	(4.9)
病弱	123	27
%	(82)	(18)
合計	1198	143
%	(89.3)	(10.7)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



【41】 医療機関において発達障害と正式な診断を受けている幼児児童生徒数

視覚障害	774
聴覚障害	1102
肢体不自由	7055
知的障害	28139
病弱	2807



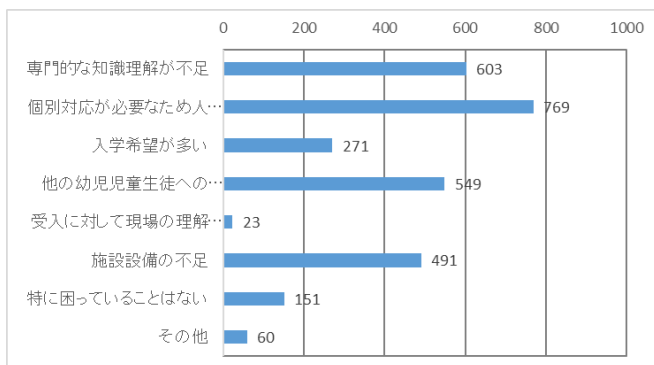
【42】発達障害幼児児童生徒への対応で困っていること《複数選択可》

	専門的な知識理解が不足	個別対応が必要なため人員不足	入学希望が多い	他の幼児児童生徒への影響	受入に対して現場の理解が得られない	施設設備の不足	特に困っていることはない	その他
合計	467	575	197	416	15	367	125	50
%	(48.5)	(59.8)	(20.5)	(43.2)	(1.6)	(38.1)	(13)	(5.2)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	42	28	8	27	1	14	12	8
%	(57.5)	(38.4)	(11)	(37)	(1.4)	(19.2)	(16.4)	(11)
聴覚障害	66	67	19	47	5	24	7	6
%	(66.7)	(67.7)	(19.2)	(47.5)	(5.1)	(24.2)	(7.1)	(6.1)
肢体不自由	133	148	40	97	5	92	45	10
%	(51.4)	(57.1)	(15.4)	(37.5)	(1.9)	(35.5)	(17.4)	(3.9)
知的障害	312	446	169	324	7	310	66	28
%	(46.2)	(66)	(25)	(47.9)	(1)	(45.9)	(9.8)	(4.1)
病弱	50	80	35	54	5	51	21	8
%	(38.5)	(61.5)	(26.9)	(41.5)	(3.8)	(39.2)	(16.2)	(6.2)
合計	603	769	271	549	23	491	151	60
%	(20.7)	(26.4)	(9.3)	(18.8)	(0.8)	(16.8)	(5.2)	(2.1)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



専門的な知識を持った人員の不足、個別対応が必要なため人員不足がどの種別でも問題点として掲げられている。

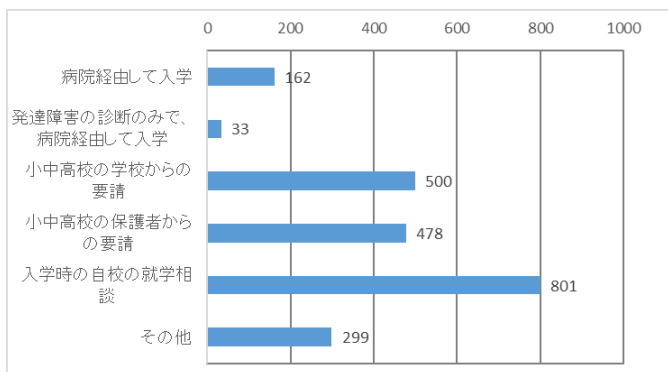
【43】発達障害の幼児児童生徒の入学までの経緯《複数選択可》

	病院経由して入学	発達障害の診断のみで、病院経由して入学	小中高校の学校からの要請	小中高校の保護者からの要請	入学時の自校の就学相談	その他
合計	118	25	355	348	617	220
%	(12.7)	(2.7)	(38.3)	(37.5)	(66.6)	(23.7)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	4	0	14	20	48	24
%	(5.6)	(0)	(19.7)	(28.2)	(67.6)	(33.8)
聴覚障害	8	1	21	23	71	20
%	(8.7)	(1.1)	(22.8)	(25)	(77.2)	(21.7)
肢体不自由	38	7	102	96	155	64
%	(15.3)	(2.8)	(41.1)	(38.7)	(62.5)	(25.8)
知的障害	51	18	320	294	465	160
%	(7.7)	(2.7)	(48.3)	(44.3)	(70.1)	(24.1)
病弱	61	7	43	45	62	31
%	(48.4)	(5.6)	(34.1)	(35.7)	(49.2)	(24.6)
合計	162	33	500	478	801	299
%	(7.1)	(1.5)	(22.0)	(21.0)	(35.2)	(13.2)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



種別によって入学経緯に若干のばらつきがあるが、学校からの要請、保護者からの要請、就学相談で入学するケースが多いことがわかる。

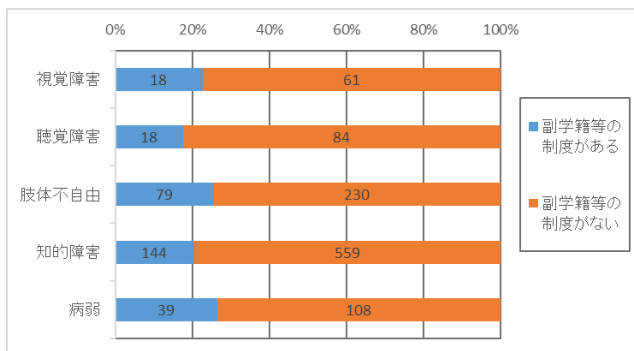
【44】 あなたの県や市は、副学籍等の制度がありますか。《単一選択》

	副学籍等の 制度がある	副学籍等の 制度がない
合計	229	817
%	(21.9)	(78.1)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	18	61
%	(22.8)	(77.2)
聴覚障害	18	84
%	(17.6)	(82.4)
肢体不自由	79	230
%	(25.6)	(74.4)
知的障害	144	559
%	(20.5)	(79.5)
病弱	39	108
%	(26.5)	(73.5)
合計	298	1042
%	(22.2)	(77.8)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



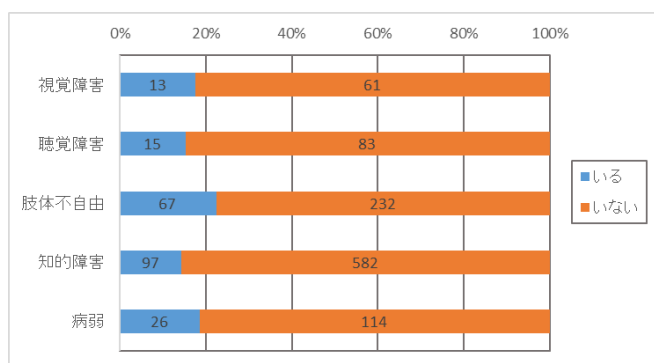
【45】副学籍等を実施している児童生徒がいますか。《単一選択》

	いる	いない
合計	161	844
%	(16)	(84)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	13	61
%	(17.6)	(82.4)
聴覚障害	15	83
%	(15.3)	(84.7)
肢体不自由	67	232
%	(22.4)	(77.6)
知的障害	97	582
%	(14.3)	(85.7)
病弱	26	114
%	(18.6)	(81.4)
合計	218	1072
%	(16.9)	(83.1)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



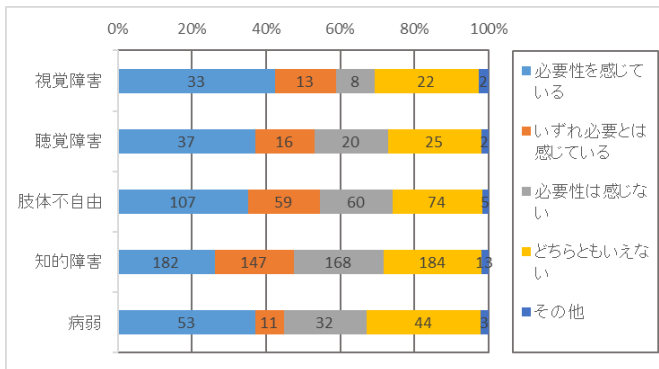
【46】副学籍等の必要性を感じますか。《単一選択》

	必要性を感じている	いずれ必要とは感じている	必要性は感じない	どちらともいえない	その他
合計	322	198	222	267	23
%	(31.2)	(19.2)	(21.5)	(25.9)	(2.2)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	33	13	8	22	2
%	(42.3)	(16.7)	(10.3)	(28.2)	(2.6)
聴覚障害	37	16	20	25	2
%	(37)	(16)	(20)	(25)	(2)
肢体不自由	107	59	60	74	5
%	(35.1)	(19.3)	(19.7)	(24.3)	(1.6)
知的障害	182	147	168	184	13
%	(26.2)	(21.2)	(24.2)	(26.5)	(1.9)
病弱	53	11	32	44	3
%	(37.1)	(7.7)	(22.4)	(30.8)	(2.1)
合計	412	246	288	349	25
%	(31.2)	(18.6)	(21.8)	(26.4)	(1.9)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



副学籍の制度自体がなく、実施されている学校数も少ない。

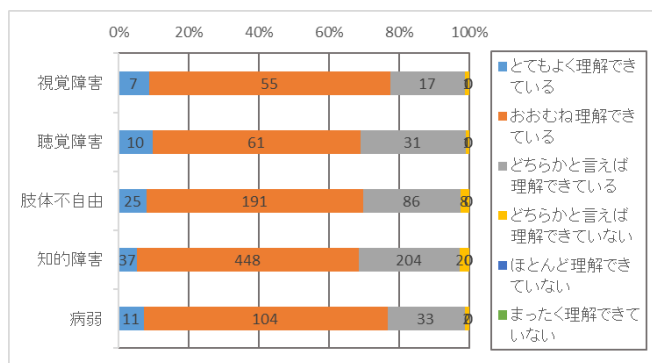
【47】 基礎的環境整備や合理的配慮の考え方について教職員の理解はどの程度図られていますか。(単一回答)

	とてもよく理解できている	おおむね理解できている	どちらかと言えば理解できている	どちらかと言えば理解できていない	ほとんど理解できていない	まったく理解できていない
合計	56	677	298	23	0	0
%	(5.3)	(64.2)	(28.3)	(2.2)	(0)	(0)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	7	55	17	1	0	0
%	(8.8)	(68.8)	(21.3)	(1.3)	(0)	(0)
聴覚障害	10	61	31	1	0	0
%	(9.7)	(59.2)	(30.1)	(1)	(0)	(0)
肢体不自由	25	191	86	8	0	0
%	(8.1)	(61.6)	(27.7)	(2.6)	(0)	(0)
知的障害	37	448	204	20	0	0
%	(5.2)	(63.2)	(28.8)	(2.8)	(0)	(0)
病弱	11	104	33	2	0	0
%	(7.3)	(69.3)	(22)	(1.3)	(0)	(0)
合計	90	859	371	32	0	0
%	(6.7)	(63.5)	(27.4)	(2.4)	(0.0)	(0.0)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



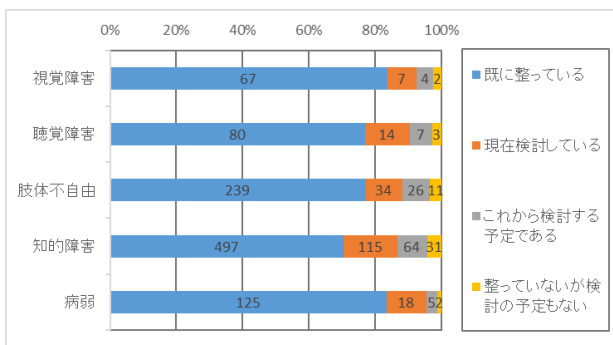
【48】 個別の教育支援計画に「合理的配慮」の内容を記載する様式は整っていますか。(単一回答)

	既に整っている	現在検討している	これから検討する予定である	整っていないが検討の予定もない
合計	759	157	93	43
%	(72.1)	(14.9)	(8.8)	(4.1)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	67	7	4	2
%	(83.8)	(8.8)	(5)	(2.5)
聴覚障害	80	14	7	3
%	(76.9)	(13.5)	(6.7)	(2.9)
肢体不自由	239	34	26	11
%	(77.1)	(11)	(8.4)	(3.5)
知的障害	497	115	64	31
%	(70.3)	(16.3)	(9.1)	(4.4)
病弱	125	18	5	2
%	(83.3)	(12)	(3.3)	(1.3)
合計	1008	188	106	49
%	(74.6)	(13.9)	(7.8)	(3.6)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



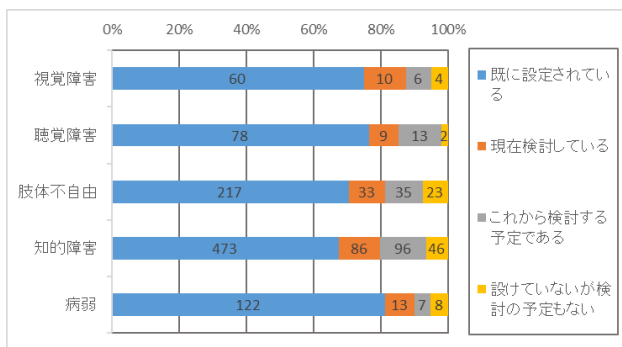
【49】 合理的配慮の内容を柔軟に見直すための相談や会議の場は設けられていますか。(単一回答)

	既に設定されている	現在検討している	これから検討する予定である	設けていないが検討の予定もない
合計	726	125	128	64
%	(69.6)	(12)	(12.3)	(6.1)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	60	10	6	4
%	(75)	(12.5)	(7.5)	(5)
聴覚障害	78	9	13	2
%	(76.5)	(8.8)	(12.7)	(2)
肢体不自由	217	33	35	23
%	(70.5)	(10.7)	(11.4)	(7.5)
知的障害	473	86	96	46
%	(67.5)	(12.3)	(13.7)	(6.6)
病弱	122	13	7	8
%	(81.3)	(8.7)	(4.7)	(5.3)
合計	950	151	157	83
%	(70.8)	(11.3)	(11.7)	(6.2)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



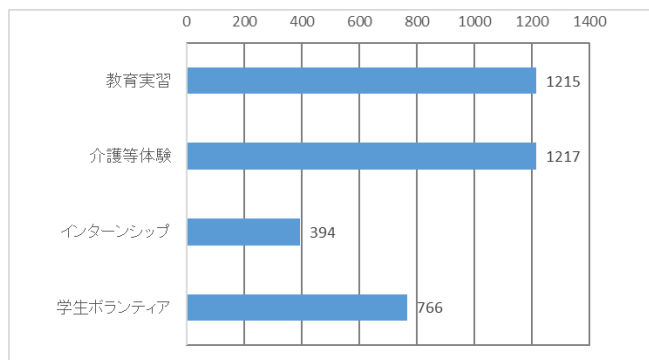
【50】次世代の教員養成に協力するための取組として大学が行う教育実習，介護等体験，インターンシップ，学生ボランティア活動に協力をしていますか。

	教育実習	介護等体験	インターンシップ	学生ボランティア
合計	924	927	281	584
%	(95.7)	(96)	(29.1)	(60.5)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	69	80	27	46
%	(86.3)	(100)	(33.8)	(57.5)
聴覚障害	98	99	30	55
%	(96.1)	(97.1)	(29.4)	(53.9)
肢体不自由	292	291	104	191
%	(98)	(97.7)	(34.9)	(64.1)
知的障害	640	633	193	404
%	(98)	(96.9)	(29.6)	(61.9)
病弱	116	114	40	70
%	(90.6)	(89.1)	(31.3)	(54.7)
合計	1215	1217	394	766
%	(33.8)	(33.9)	(11.0)	(21.3)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



「教育実習」「介護等体験」の取り組みは多く行われている。

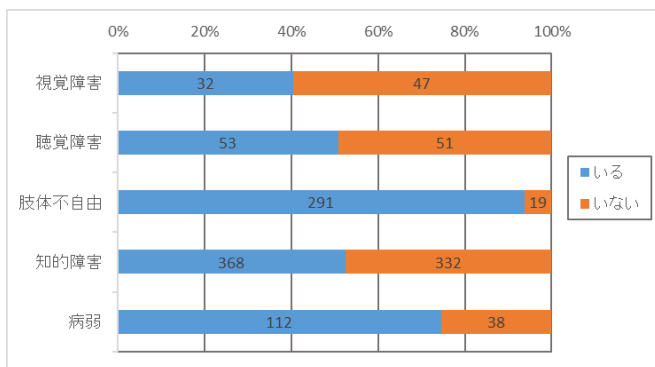
【51】 医療的ケアを必要とする児童生徒の有無

	いる	いない
合計	597	448
%	(57.1)	(42.9)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	32	47
%	(40.5)	(59.5)
聴覚障害	53	51
%	(51)	(49)
肢体不自由	291	19
%	(93.9)	(6.1)
知的障害	368	332
%	(52.6)	(47.4)
病弱	112	38
%	(74.7)	(25.3)
合計	856	487
%	(63.7)	(36.3)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



さいごに

基礎的環境整備や合理的配慮のニーズ事態を学校側が認識するための会議体の設置、計画は年々整備されつつあることが調査結果から見て取れる。